

平成21年度 第3回
多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会（第3期）会議録

日時：平成21年7月14日 午後7時～8時55分
場所：多摩市役所 第二庁舎会議室

会長 皆様、こんばんは。今日は大変暑くて大変だったと思います。忙しい中のご参加ありがとうございます。

それでは、今日は第3回目の審議会に入ります。「多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会」の第3回でございます。

それでは、今日の出席状況の確認を事務局からお願いしたいと思います。

事務局 それでは、事務局からご報告させていただきます。

ただいまの出席委員は13名でございます。多摩市立学校の一定規模及び適正配置等に関する審議会条例第6条第2項の規定のとおり、過半数の委員の参加がございますので、本日の審議会は成立しております。

会長 ありがとうございます。

それでは、審議会は成立しましたので始めさせていただきたいと思います。

会議録の署名委員の指名ですけれども、名簿の順になっていますから、今回は〇〇委員を指名させていただきます。よろしくお願いします。

これから会議を進めていくに当たって、前回にどんなことをやったのか、一応、簡単に確認して進んでいったほうがいいですから、それを確認させていただいてから中身に入ろうと思います。

第1回目に決定した事項を事務局からお願いします。

事務局 では、引き続きまして事務局から、前回、第1回の会議結果の確認をさせていただきます。

これからご説明いたします会議結果につきましては、第2回の審議会のときにご通知に同封させていただきました。お手元にございましたら、ご確認いただきたいと思います。

まず、1点目として、正副会長の選出でございます。会長に〇〇委員、副会長に〇〇委員をご選出いただきました。

2点目につきましては、3項目ございまして、1つ目は申し合わせ事項と傍聴人遵守事項についてです。この2件につきましては、ご提示した案のとおり決定をいただきました。

2つ目につきましては、区域代表に関してオブザーバー制度を創設し、区域代表1人につき2名までのオブザーバーを認めることとさせていただきました。3つ目につきましては、今も決めていただきましたが、会議録署名委員を名簿順として、第1回につきましては、〇〇委員に会議録署名委員をお願いしました。

3点目として、審議会の会議スケジュールについて、概ね第1回でお示した案のとおり進めるということで確認をさせていただきました。

4点目としまして、会議日程を第1回は6月29日、第3回を本日7月14日、第4回を7月29日と決定させていただきました。

会議結果につきましては、以上になります。

なお、今の会議結果の説明の中にもございましたように、オブザーバー制度につきまして、先日ご承認いただきました。それに基づきまして、東愛宕小から〇〇さん、〇〇さ

ん、また西愛宕小から〇〇さん、〇〇さんとそれぞれ2名の登録申請が出されております。申し合わせ事項の2、オブザーバー制度で審議会の承認を得て指名登録をすることができるとなっておりますので、両校のオブザーバーにつきましてご審議のほどをお願いしたいと思います。

会長 今、オブザーバーの件で申し入れがありましたけれども、この件はよろしいでしょうか。

(「結構です」の声あり)

会長 では、よろしく申し上げます。承認させていただきます。

事務局 それでは、恐縮ですが、東愛宕小学校と西愛宕小学校のオブザーバーの方、委員の後ろにお付きください。

なお、オブザーバーにつきましては、審議会から求められたとき、または審議会の承認を得て発言をすることができますが、その際はメモで会長に申し出てください。また、オブザーバーは審議会の委員の身分を有しないということになっておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

会長 どうもありがとうございました。

それでは、今日の主な議題を確認して進めさせていただきたいと思います。

今日は主に3つあります。1つ目は、前回、学校視察をされたと思いますけれども、そのときいろいろ感じたこと、感想を自由に言っていただくというのが第1点目です。

2点目は、これからの審議の進め方です。進め方の問題ですね。進める方向性を決めさせていただきます。

3つ目は、それに基づいて方向性が決まったら、そこからいろいろな課題等がありましたら提出していただくということで。その次の第4回からは、実際に物事を整理したもののから進む形になろうかと思っておりますから、今日はいろいろなものを出させていただくということが中心になろうかと思っておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

以上3点を中心です。よろしいでしょうか。

では1点目、西愛宕小から東愛宕小、多摩第二小を見学いたしましたね。そのときの感想・意見を全員の方に一言ずつ言っていただければありがたいと思っておりますけれども。

意見を言う前に、事務局のほうから学校視察に関してお話があるということなので、お願いします。

教育部参事 それでは、ご報告させていただきます。

(一定規模担当) この後、各委員から感想、あるいは意見をいただくこととなりますが、それに関わりがありますので、ご報告をさせていただきます。

6月29、30日につきましては、半日をかけて対象校3校の視察を行い、また学校間を実際に歩いていただきまして、委員の皆さん、大変お疲れさまでございました。あり

がとうございました。

今回の視察は、見直し対象校の状況などを実際に委員の皆さんに目で確かめていただくのが目的で設定をさせていただきました。そのような中で、東愛宕小学校の校長先生から非常に熱い思いで、現状説明を超えた統合についての個人的な見解までお話が及んだというふうに理解しております。この件につきましては、後日、校長先生が教育長のもとに来られまして、説明のときに少し言い過ぎましたというお話がありましたので、審議会の皆様にご報告させていただきたいと思っております。

以上でございます。

会長 よろしいでしょうか。

これから審議し考えていく前に今の説明がございました。よろしいでしょうか。

それでは、まず皆様方の感想や意見をいただきたいと思っております。どちらからでもいいのですけれども、どうでしょうか。

では、〇〇委員のほうからお願いします。

〇〇委員 西愛宕小は自分も頻繁に行っているのですが、いつもどおりの印象だったのですけれども、屋上に上ったのは初めてのことだったので、ちょっと感激したというか、良い体験だったと思いました。

東愛宕小は、先ほど事務局からのご説明もありましたけれども、校長先生のお言葉は私はすごく心に響いたのと、やはり学校の現状というのを具体的に話してくださったことで、他の学校のことなので全然わからなかったのですが、よく理解ができたというふうには思いました。

特別支援学級のほうも、とても良い雰囲気でされているなというふうに思いましたし、施設的には、和室がもったいないなと思ったりとか、そういうふうには感じました。

多摩第二小は、やはり本当にぎちぎちなというのが正直な感想というか、すごく息苦しいなという感じで、校長先生もおっしゃっていましたが、1つの階に水道が何個か少なくて、児童が並ぶというのがすごく衝撃だったのと、竜ヶ峰小との統合があったけれども、子どもたちは順調に慣れてきているというお言葉は少し安心したところです。

会長 ありがとうございます。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 まず、西愛宕小のほうは緑が多いということ、気になったのが校庭と校舎が若干離れているのかなということ、でも、校舎自体はすごくきれいに使っているの、皆さん、きれいにしているんだなというのは印象です。

あと、東愛宕小は特別支援学級のほうは私も初めて見たので、同じ学校内でもどんなことをやっているのか知らなかったのですが、知ることができて良かったなというのがありました。

多摩第二小は、今、〇〇委員も言われたとおり、すごいきつきつだなというのは正直思

いました。トイレも1つの階に1つしかなかったですし、水道も2つ、3つしかなかったので、みんなが並ぶというのは想像つかないし、図工の教室を見に行っただけですけども、何かがちががちがしている気がして、落ち着いてできるのかなと正直思いました。

会長 どうもありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私は児童数の面から。私は今は東落合小なんですけれども、統合する前は北落合小と言いまして、南北が統合したのですが、大きいほうの学校だったんですね。最初に単学級になった学年だったのですけれども、統合を経てきて、今回、東愛宕小と西愛宕小を見まして、本当に分校のような子どもの少なさに、耳だけじゃなくて、目で驚きました。大変驚きました。この10何万人という都市にありながら、10人にも満たないような教室があるんだって、本当に驚きました。

 学級数が少ないと、先生方の人数も少ないわけですから、大変だということもよく知っておりますから、裏の事情もいろいろ大変なんだろうなと思っておりました。

 反面、多摩第二小に行ったときに、今度はがちがちとした雰囲気にもまた圧倒されました。東落合小は2クラスになるか、3クラスになるかとか、そういう線で動いている学校なんですけれども、校長先生は3クラスか4クラスかによって学年ごとに大移動をするとおっしゃいました。6年生の隣が1年生だったんですね。どうしてこうなったかというのを、普通は5、6年が並びますが、そうじゃなくて、クラス数が多いために一列に入らなかったの、動かさざるを得ないのですよとおっしゃったときにやはりびっくりしました。

 学年の中でフロアが分かれたらしょうがないわけですから、そういう大変さがあるんだとか、『千と千尋の神隠し』に出てくるような長い階段を通して、何か温泉に入るような雰囲気の体育館に入っていく、あれも驚きました。夏は涼しいのかなとは思いますが、冬場はあの中を通して体育館に行くんだとか、あと少ない休憩時間の中で着替えをするんだとか、あと全校が入るとおそらくいっぱいになるであろう体育館に子どもたちが集まるんだとか、その体育館の先に図書館があったのと、音楽教室もあるとおっしゃっていたので、授業の配置、例えば着替えがあるのは、3時間目しか小学校はできないだろうとか、2時間目に入れると大変だろうとか、そういうことをいろいろ考えていまして、教室のやりくりは大変だなと思いました。

 あと、校庭に驚きまして、運動会するとき親はみんな立って見るのだろうなと。座ってはほとんど見れないだろうなと。片や東愛宕小と西愛宕小の校庭は広々としていて、子どもたちは運動会で何回も出演場面があるのだろうに、多摩第二小の子はほとんどないのだろうとか、そのようなことを感じました。

会長 先ほど分校のように小さく感じたというのは、東愛宕小、西愛宕小の両方とも同じ感想ですか。

〇〇委員 そうですね。

会長 そうですか。どうもありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私は用事があったもので、多摩第二小のほうは途中で欠席させていただいたのですが、東愛宕小と西愛宕小を見学させていただきまして、感じたことは、やはり児童数が少ないということですね。1クラスの児童数も少ないということを感じまして、統合ということを考えていった場合に、単純に統合してしまうと、児童数だけが増えて、クラス数はあまり増えないというような感じになるのかなと思いました。そういう中で、東愛宕小にあったコミュニケーション教室とか、ないしは他のクラスにもいらっしやった、そういう児童の指導とかがどのようにしていくのかというのは、結構大きな問題になってくるのかなというのは感じました。

会長 どうもありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 西愛宕小と東愛宕小を見たときに、正直なところ「あっ、うらやましいな」と思ったのが第一ですね。私の子どもは連光寺小学校に通っていますが、1クラス40人からいるクラスの中で、先生の声が後ろまで届かないというのも現状としてあるわけですね。そういう中で、教室の真ん中でああいうふうに子どもたちがまとまっていられるというのは、いいなと思う部分もあった反面、この子たちが今度、大きな学校へ行ったときにどうなるのかなと。それに対応できるのかなという。単に統合してしまっ、クラスが増えるのではなくて、先ほど〇〇委員もおっしゃっていたように、1クラスの人数がごそっと増えただけであったときに、クラスの人数の多さに対応できるのかなというのが第一に引っかかったところです。

 私は地元が愛宕ですから、東西愛宕小のどちらも知っていますが、西愛宕小に入ったのは今回が初めてだったんですね。ちょっと新鮮さを感じたのですけれども、いろいろな意味で、これから考えていかなくはいけないかなと思ったところもあります。

 多摩第二小学校を見たときに、「あっ、これはうちと一緒に」と思ったのもやはり事実です。連光寺小のクラス数はそこまで多くはないのですけれども、1クラスの人数が40人というのは、現状としてどこもあるわけですから、これはうちと一緒にというふうに思いました。

 1クラスの人数が多ければ、動線が重なってしまうというのも事実ですし、クラスの中ががちゃがちゃしてしまうというのもやはり事実としてあるところですが、少ないからシーンとしているかということ、ちょっとそうでもないかなという部分も感じました。東愛宕小を見たときに、注意が必要な子どもが多いという話を校長先生から伺って、この子たちがクラス数が増えたときにどうなのかなというのはすごく気になるところです。

会長 どうもありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員　私も北諏訪小学校なので、多摩第二小の次に大きい学校になるのですけれども、やはり今、1クラス40人という子ども、そういう中で、6年生は40人近くいますので、本当にきつい、先生も一人一人に目が行き届いていないというふうに思います。

とすると、やはり理想的には1クラス30人というのが本当に理想の姿ではないかなと、多くて35人ぐらいだと思うのですけれども、今、見ていますと、東愛宕小と西愛宕小を足しても30人ぐらいなんです。40人にはならないということは、やはり足しても1クラスのまま結局6年間過ごすことになるのでしたら、統合してもメリットがあるのかどうかというふうに思いました。そうすると、先ほどおっしゃっていた多摩第二小学校は人数が多すぎるので、一番思ったのは、多摩第二小学校の体育館がすごく狭いので、入学式は1年生の両親と子どもでいっぱいになってしまうので、6年生は入れないという、他の学校とちょっと違うなというふうに。体育館の大きさも、プールの大きさも、子どもの数ではなく、学校は市が建てているので、みな同じ大きさをスペースをとっているということにちょっと驚きました。そういう点で、多摩第二小学校の子どもたちをまた統合した学校にうまく配分できればいいけれども、学校選択制があって自由に学校を選べる中、多摩第二小のお母さんたちはやはり大きい学校だから入れているというところがあると思うのです。

もし東愛宕小と西愛宕小が統合して、多摩第二小のお母様たちに入ってくださいと勧めても、入らないのではないかなというふうに思いました。でも、多摩第二小の校長先生が、子どもたちは竜ヶ峰小学校と統合したことで一緒になったけれども、子どもたちの中ではお互い問題なくうまくいっているということを知って、ただ親の側がそれを受け入れていないようなことをちょっと……。それがすごく気になりまして、やはり統合というのはすごく難しいのだなと思いました。

西愛宕小の正面に入って、玄関の左側にスペースがつくられていましたよね。あのスペースはとてもいいなと思いました。子どもたち、これはすごく喜ぶのではないかなと思いました。東愛宕小の校長先生がとても熱く語ってくれた言葉も、すごく私にも響きました。寝転がって授業を受けている1年生がいたのはすごく印象を受けたのですけれども、怒らないで褒めてあげるといことは、親にとってもそうやって育てるといことは大切なことだなと思いました。

それぞれ特徴があり、良いところがたくさんあるので、もし統合をした場合には、両方の良いところを生かしてできればいいなというのが願いです。

会長　　どうもありがとうございました。
では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員　本当にそれぞれ皆様のおっしゃったとおりですが、現実問題、今、多摩第二小は人数が多いのですけれども、今後どうなっていくのだろう。今はいろいろ家が建っていて、人数がすごく多い状態だけれども、今後はどうなるのだろうと。西愛宕小にしても東愛宕小にしても、今後どうなるのだろう。もっと少なくなると思うのです、変な話。

あと、学校選択制があるので、今、中学を選択するに当たっても、西愛宕小の子たちは

東愛宕中には行かず、落合中とか鶴牧中とか、他の学校に行く子のほうが多いのです。
あと私立に。

もちろん小学校のときから受験するお子さんも結構いるので、そうなったときに、これを普通に単に足したところの人数には絶対にならないんですね。かといって、多摩第二小から持ってくればいいのかとなつたときにも、やはりいろいろな地域絡み、自治会絡み、やはり地域でいろいろなことが動いているので、特に多摩第二小は元々の地の人が多いので、やはりその辺で愛宕と一緒にするというのが結構厳しい部分なのかなと思いました。

東愛宕小の特別支援学級に関しては、私も今回、初めて見させていただきました。ただ、西愛宕小にもそれに相当するような子が多分何人かいます、現実には。ただ、やはりご両親がそれを受け入れないとか、それでそういうところに行かせようと思っていない部分もあると思うのですが、現実にはかなりの人数が、東愛宕小と西愛宕小だけではなく、多分、多摩市内にも多いというお話をされていたので、そういったところで、もし今回、東西愛宕小が統合となつた場合、その特別支援の扱いとか、また普通の子たちと一緒にやっていけるのかなど。すごく難しい部分だと思うんです。もちろん、普通の子には普通に接しなくてはいけませんが、特別だからといって、完全に特別という扱いはしないわけなので、かなりその辺の教育的な現場の微妙さというか、難しさがこれからあるなと思いました。

とにかく統合ということに関しては、現時点より、ここから先のことを考えていかななくてはいけないのではないかとということを感じました。

会長 どうもありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 視察のときの感想ですよ。

会長 はい、そうです。

〇〇委員 課題は後でしっかり言わせていただきます。

東西愛宕小に関しましては、西愛宕小も隣ですので、屋上以外はわりと小まめに顔を出したりしています。特に楽しかったのは、多摩第二小が初めてではないのですが、以前も別な会議で伺ったとき道に迷ってしまいまして、今回もやっぱり道に迷うんですよ。入り口を間違えたら、目的地に着かなくて、何回もあっちへ行ったりこっちへ行ったりした覚えがあるので。子どもがこんなにいっぱい入って、先生が苦労しながら、6年生と1年生が同士で一緒のお隣り合わせ。もしかしたら6年生が1年生をこまめに面倒見たいのかなと素直に思ったら、そういう理由もゼロではないですけどもとおっしゃられて、何かパズルをするみたいに子どもさんを入れているというお話もよかったですし、それから露天風呂に行くような階段を下って体育館に行くのもちょっと楽しい体験でした。子どもたちはすごく楽しそうにしていたので、どんな環境でも学校はそれなりに機能して、子どもたちはしっかり学んでいるなという感じを、正直に言いま

すと受けました。

私もこれは問題だ、大きくなったほうが良いというよりは、逆に、こんな楽しいことで、こんなふうに工夫している学校は、それはそれで楽しそうだなというふうに思っていました。申しわけございませんけれども、それが感想ですね。

会長 ありがとうございました。

では、〇〇委員、お願いいたします。

〇〇委員 規模の小さな学校、大きな学校、学級の中でも人数の多い少ない、それぞれ良いところがあると思うのです。私も小規模校、中規模校、大規模校と経験してきましたが、今回、西愛宕小は途中からだったので、全部は見きれていないのですが、10数人程度の学級を見たときに、ちょっと寂しいなど。校長先生のお話の中に切磋琢磨というようなお話がありましたけれども、そのような場面が教育活動の中で十分出せるのかなと思ったりしました。活気の問題なども。人数が少ないことで制約が、これもやらせてあげられないというものが出てくるのかなと。人数が多いと、小さなグループの指導というのはできますが。そのようなことを感じました。

多摩第二小については、皆さんがおっしゃった水道に並ぶとか、プールが遠いとか、図書室もかなり遠くにあたりとか。遠目で見てものことですけれども、プール指導をやっていましたが、児童がプールの脇にずらりと並んでいて、教育の効率という言葉が適切かどうかわかりませんが、効率はよくないのではないかなという気はしました。これは、はた目で見ただけですので、何とも言えませんけれども。

それから、図書室にしても、図書室へ行くのにあれだけ歩いていかななくてはいけないのですよね。ちょっと子どもが図書室へ寄って、休み時間に本を読んで帰る。そんなこともしにくい、そういう面が出てはいないかとか、あの人数で体育の時間の運動場の割り振りなどもかなり厳しいのだろうと、そんな気がしました。

会長 ありがとうございます。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私は、視察当日は欠席をしましたが、日頃3校とも見ておりますので、そこから少し話をいたしますが、うちの学校は多摩センターの近くです。大きなマンションができて、1年生が3クラスになったんですね。数年前までは全学年単学級の学校でしたが、現在5、6年生は1クラス、それから4年生、3年生、2年生が2クラス、1年生が3クラスという、児童数がアンバランスな状況です。単学級の良さはそれなりにあると思うのですが、子どもが増えたことで、やはり活気が出ましたね。その意味では、西愛宕小と東愛宕小の子どもたちは、学校の規模が小さいからといって、決して良いとか悪いとかというふうに判断はできることではないと思いますけれども、ただ、うちの学校に関しては、運動会が少し華やかにできるとか、それから友達関係が多少こじれても、来年、クラス替えがあるからいいやというふうに思えるとか、そういう意味での余裕といいますか、そういうものを若干感じることでできる学年が増えてきたと日頃思っています。その意味では、

ぜひ統合をして、複数の学年になるぐらいの規模になったら、子どもたちもより楽しいのではないかなというふうにも感じています。

それから、多摩第二小はやはり敷地のわりに子どもが多いですね。大変だなというふうに感じます。適正な子どもの人数や施設設備の広さというのものもあるのではないかなと思うのですが、でも多摩第二小学校ですから、歴史が古くて、昔から通っていらっしゃる家庭も多いと思います。おじいちゃんも二小、お父さんも二小、僕も二小という子がいると思いますので、そういったことも配慮しないと、人数だけとかということで簡単に切ることもなかなか難しいのではないかなとも思います。

会長 ありがとうございます。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私は当日、西愛宕小学校、東愛宕小学校、多摩第二小学校の順で見せていただきましたが、一言で感想を言いますと、同じ市内の小学校でもこんなに雰囲気が違うのかなというふうに思いました。人数が多いほうが良い、少ないほうが良いというのはわかりませんが、子どもたちはそれぞれの学校で楽しそうに過ごしていましたし、先生方も規模に応じたすばらしい教育を展開されていて、それを見せていただけて本当によかったと思います。

まず、西愛宕小に行った後に、東愛宕小につながる遊歩道を通りましたが、正直、ちょっと寂しいなという感じを受けました。我が子たちが通っている道を考えると、車が多いとか、そういった面の危険はないかなという感じを受けました。

その後、多摩第二小を見せていただきましたが、やはり子どもたちの安全面が少し心配です。人数と学校の規模という問題も考えなければいけませんし、その辺が少し心配だなというふうに思いました。

校長先生のお話を伺って私がとてもうれしかったのは、竜ヶ峰小学校と多摩第二小学校は統合されて新校になりましたが、子どもたちは順応してうまく溶け込んでいるという点。それは本当によかったと思います。保護者がやはり問題だというふうにおっしゃっていましたね。それはあるかなというのはいりました。

会長 ありがとうございました。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私は29日都合がつかなかったものですから、皆様には失礼いたしまして、30日に〇〇委員と一緒に同じコースで、同じところを拝見させていただきました。

私事から入りますけれども、私も実は仕事柄、年間、何十校と学校を見て回ります。ですから、今回、西愛宕小、東愛宕小、多摩第二小と似たような学校は、国内のあちこちで拝見いたします。私としてはあまり言葉多く語る気はありませんが、確かに人数が多い学校というのは、例えば我々が廊下を歩く中、子どもたちがこぼれ出てくるように、先ほど校長先生もお話がありましたけれども、活気があるんですね。

もちろん保護者の方々、地域の方々からすると、細やかな目が行き届く少人数という、ある理想の姿も一方ではあると思います。ただ、やはり大きい規模になってくると、そ

それはそれでさまざまな施設の問題、設備の問題、そしてやはり目が行き届かないかもしれないという安全性の問題は必ずあります。これはやはり今回もあの敷地内の配置等を見ていく中で、これはきっと先生方がすごく工夫されてやっているのだろうなということはわかりますが、校長先生も非常に穏やかに、なかなか大変なんですよということで、まだ余裕があった、我々にはそういうお顔を見せてくださったかわかりませんが、そういうところは感じました。

逆に、小さいほうの学校ですけれども、確かに我々が見るときには、ああいう一場面です。とても静かな一面なんですけど、想像していただきたいのは、あれが365日といたしますか、35週間ずっと続くのです。そのことの難しさというのを先生方は日々背負ってやっていらっしゃるということですね。

もちろんそれが言い方によれば、東愛宕小の校長の熱弁のような形にもなるでしょう。もちろんあの努力は大変なものだと私も感服いたしますし、もちろん校長先生も言い過ぎたところもあるというふうにおっしゃっていたようですから、それはそれで、また差し引いて聞かなければなりませんけれども。西愛宕小は西愛宕小で、またその人数の中で、非常に先生方の熱心な指導が垣間見られて、良い雰囲気なんですけど、やはりあの人数がずっと続くということが1つ。

そして、先生方が持ち上がったときに、お1人ずつだと、前に見た子どもたちというのを次の学年で見ない確率が高いのですね、単学級だと。複数いると、入れ替えていきますから、またどこかで出会ったりする、そういう実は良さがあるんですね、複数学級というのは。そういった部分で、私はそういう専門職ですから、そういう長い目で見てしまうというのがありますので、これが1年間続くことの先生方の大変さに思いを寄せながら拝見しました。

もう1点は、やはり多摩第二小の校区の広さですね。車で連れて行っていただいたのですけれども、これだけ遠くから子どもたちが来てくださっているということで、その登下校の安全面、先ほど〇〇委員からもありましたけれども、逆に今度は、西愛宕小から東愛宕小へ抜ける道の安全面、これはやはり我々、地域の大人、周りの大人がしっかり考えていかなくてはいけないことだということは、今回一番感じたということです。

会長

ありがとうございます。

私も一言。西愛宕小、東愛宕小はどちらかという、静という感じがしますね。それに対して、多摩第二小は動、少しと大きく目立つという、静と動の感じを両方から感じました。

子どもたちにおいては、純朴でどこの子どもも同じだなと思いました。私は学校に入るといつも声をかけるほうですけれども、どこの子どもも同じように反応して、子どもってかわいいものだなと思いました。子どもはどこにいても一緒だなということがありました。これから良い方向へまとまっていくといいなと思いながら、私は市役所の駐車場に戻ってきました。

ありがとうございます。では、後ほど、またこの感想を通じていろいろ意見を出していただくこともありますので、感想のほうはここまでにさせていただいて、もし付け足しがあれば、あとでお願いしたいと思います。

では、2番目、これが今日は非常に大事です。審議のもとになるものです。今、感想等
は出されましたけれども、次にこれからの審議の進め方でございます。今、私のほうで
いろいろこれからの進め方について、メモを事務局のほうにつくっていただきました。
やり方はいろいろあるでしょうが、皆さんに諮って、審議の方向を考えてみたらどうか
ということで、A、B、C、D案と4パターンあります。簡単に説明させていただきます。

諮問をいただき、これから審議を進める方法です。まずA案ですが、東西愛宕小の統合
についての検討をするということを中心に置きながら、今後、多摩第二小の線引きの議
論も合わせて、附属的になるかと思えますけれども、検討していくというのがA案です。

B案のほうは、東西愛宕小の議論を踏まえてから、多摩第二小の通学区域についての検
討をする、こういう方法がB案です。

C案は、多摩第二小の通学区域について検討した後に、東西愛宕小の議論を進める方法。
こういうやり方もないこともないと思ひまして書いてみました。

D案のほうは、東西愛宕小と多摩第二小の通学区域、双方の観点から。つまり全部です
ね、一緒に話を進めていったらどうかということです。

このように、A案からD案まで出ささせていただきましたけれども、この件について皆さ
んに諮り、今後どの方向で検討していくかということを決めていきたいと思ひます。

事務局の方につくっていただいたので、補足があったらお願いします。

教育部参事 それでは、事務局のほうから補足をさせていただきますが、その前にこのペーパーに
(一定規模担当)関わりがある、多摩第二小の保護者との調整の経過を少しご報告させていただきたいと
思ひます。

多摩第二小の保護者の委員推薦については、5月22日にありました第1回の審議会の
ときに、状況を少しお話させていただきました。その際は、多摩第二小としてはまだ考
えがまとまっていないということから、推薦の具体的なお名前をいただいていないとい
うことで、近々、代表の役員の方と話し合いの予定にしているので、引き続き推薦につ
いて働きかけていく考えですということを皆様方にお伝えをしました。

その後の動きについて、今日のご報告させていただきますが、6月2日に雨で順延にな
った多摩第二小の運動会がありました。私も行きまして、会場でたまたま保護者の代表
者の方とお会いできましたので、いろいろ運動会の状況を見ながら、引き続き委員の推
薦についてお願いをいたしました。

その際、その保護者、PTCAの会長ですが、ぜひ教育長と話し合いをしたいというこ
とでしたので、日程やメンバー、どういう話し合いをするのかということについて、そ
の後いろいろ調整を行いました。

その話し合いは6月20日に行うことができ、多摩第二小のPTCAの役員の方3名と、
教育長、それから教育部長、私の間で1時間を超える話し合いをさせていただきました。
終わったあと、玄関までお見送りしたのですけれども、そのときに多摩第二小の方の推
薦はどうでしょうかとお話しをしましたら、会長から検討したいというお話がありまし
たので、非常に期待をしてお待ちしていました。

しかしながら、その後、6月24日に会長からメールが届きまして、実はもう1度、話

し合いをしたいということがありました。その話し合いの中で、以前の審議会の委員である、第2期の審議会の委員も交えての話し合いをしたいということの要望がありまして、その辺については、今後どのようにするかを調整中ということでございます。

以上、多摩第二小との調整経過をお話しさせていただきました。

それでは、資料の補足のほうでございますが、今、会長からお話がありましたけれども、実は教育委員会でも審議をどういうふうに進めていくかというのは、実は過去に議論したことがありましたけれども、A案の考え方としては、いわゆる同心円といいますか、コアになる部分という概念ですね。東西愛宕小をまず核に考える、しかし一定規模を満たすために多摩第二小の線引きをするということ。そういう考え方のもとに考えると、まず東西愛宕小を主に考えるのですが、多摩第二小も当然、関わりが出てきますので、多摩第二小との関係についても協議はオーケーということなんですが、主に東西愛宕小をまず検討していくというものです。

網かけになっているところが、最初に協議をしていくところとご理解をいただければと思います。他の案については、会長からお話がありましたとおり、こういう組み立てになっております。

会長 よろしいでしょうか。私は、諮問事項に沿っていろいろ観点を考えてつくってみました。これはいわゆる方向付けです。皆さん、何かお考えご意見がありましたら、どうぞおっしゃってください。

〇〇委員 説明で不足等ございますか。

結果的には、この東西愛宕小の統合の検討のことと、それから通学区域の線引きの検討のこととが絡んでくるということは同じだと思います。

ただし、私たちが避けなければならないのは、これらのことの優先順位といいますか、何を大事に考えながら、何はそれから影響するのか、何は同時に考えることがふさわしいか、ふさわしくないか、そこを最初に決めておかないと、話す途中でまた蒸し返す。あの問題はどうか、これはどうなったということで、何度も何度も堂々めぐりになってしまうことが考えられます。そこで、まず原則として、どの事柄を我々、まずきちんと整えながら、次に進んでいくかということの順番を考えたほうがいいのかと会長からご説明がありまして、それを受けてこの資料ができたというふうに伺っております。

会長 〇〇委員、どうですか。

〇〇委員 A案で私はいいのではないかと。まずは、東西愛宕小のことを考えて、一定規模のことも考えたときに、では、多摩第二小はどうしましょうかという形の方向性のほうが良いのではないかなと思います。最初から多摩第二小のほうを入れてしまうと、いろいろなことがいろいろ尾ひれがついて大変だと思うので、まず東愛宕小と西愛宕小のことについて検討していくというのが、私は良いのではないかと思います。

会長 その件について、いかがですか。

〇〇委員 まず、これはおかしいと私思うのは、まずC案をカットさせていただきたいなど。先に多摩第二小というのは、委員も出ていないのにということで。

会長 カットですね。

〇〇委員 あと、私が悩んでいますのは、今、〇〇委員が言ったように、A案で良いのではと思いますけれども、逆に言うと、先ほどから出ている私どもの最大の課題は、統合しても適正規模にならないということなので、そうすると、全部でD案かなと思ったりしています。どちらが良いではなく。

何といっても一番大きな課題は、統合してもならないよというところが一番大きな課題。それを解決するには、やはり今、多摩第二小がというのが出てきていますけれども、それが果たしていいかどうかというのもやはり地域の者としては言いたいことがございます。

それはどれに当たるのかなと思うと……。

〇〇委員 私も〇〇委員と同じような解釈ですが、私は逆にC案が先なのかなというふうに思ったんです。というのは、もちろん多摩第二小の区域のことを多摩第二小の方がいらっしやらない場で審議するのもどうかというのはあるのですが、今、〇〇委員がおっしゃったように、東西愛宕小が統合した場合、一定規模にはならないので、多摩第二小の通学区域の線引きをするべきなのかどうかということをまず考えて、一定規模になるかどうかということが先に来るのではないかなと思ったので、その解釈で私はC案かなと思ったのですけれども。とにかくどちらも一緒に考えていかなくてはいけない、東西愛宕小はもちろん考えなければいけないのですけれども、そこを主に考え過ぎてしまうと、結果的には一定規模にはならないので、じゃあ、やはり多摩第二小の区域や隣接区域を考えなければいけないというふうになったときに、つまりとつか。多摩第二小が出てきてくださらない以上は、そこをどうこうという話にはならないと思うんです。

先というわけではないのですけれども、多摩第二小の件は線引きができるのかどうか。申しわけないですけれども、私は該当校なので、どうしてもそこが気になってしまうところで、一定規模にならないのであれば、先ほどからずっと出ている、統廃合する意味がわからないなというところがあるので、やはり多摩第二小の通学区域がちょっとただけ、という言い方は適切ではないかもわからないのですけれども、ただけるのかどうかとか、きちんとした規模になるのかどうかということが私はすごく気になるところです。

会長 今、ここでは先になるならないとかではなく、そのことを考える順番を今、決めているものですからね。

〇〇委員 私は解釈としてはC案で。ただ、それはそういう意味じゃないのかなとか、今、思った

りしていますけれども。

会長 一定規模になるかならないかというよりも、そういうことの検討の順番のときに、ならなかったらならなかったで、また問題になるのですけれども、そのことで進め方として、ここに諮問事項が出てきているものですから、結果的に、ならなかったらならなかったになるのでしょうかけれども、なるかならないかはこれから課題が出てきたり、いろいろ検討したときにわかるかなと思うので、その進め方についてどうかということです。今日は中身の問題というよりも、進め方について話をしていますので……。一緒に考えなくてはいけない部分がありますけれども。そういうことで、もう少しいろいろ言っていただければと思いますけれども。

ほかの方、どうでしょうか。

〇〇委員 学校のほうから考えますと、今回の3期の一定規模適正配置の審議会は、東愛宕小と西愛宕小の統合についての審議会ですので、それがまずメインにあるべきだというふうに思うのです。

その話を進めていく中で、統合してこういうメリットがありますよ、こんなふうによくなりそうですよというところを、やはり探したいですね。統合してつらいということではなく。こういう良いところがあるのだから、多摩第二小学区の中で愛宕に近いところの方もどうですかというふうに進めていくほうが、説得力があるかなというふうに思います。

最初に、多摩第二小のことについて話を持っていくと、切るか切らぬかという、そこだけになってしまおうと思うのですよ。そこはやはり人間の心理として、切るか切らぬかという話になったら、このままで結構というふうになびいてしまうかなと。やはり統合して新しい学校をつくるすばらしさというものをまず話し合うというところから。例えば学校を経営する側の校長としては、統合校をやってくれよと言われてたら、こういう学校をつくりたいなとか思いますよね。そこから話を皆さんでするという意味では、A案が一番良いかと思います。

あくまでも東西愛宕小の統合について検討しながらも、多摩第二小のことも一緒に検討していくという部分がありますので、A案が現実的なように私は思います。

会長 いろいろな意見が出されてきましたけれども、ほかの方、どうでしょうか。

今日は、結論として統合するかどうかという問題ではなくて、進め方の問題です。ですから、その次の段階になって進めていくうちに、やはり無理じゃないかとか、良いとか、そういうことがいろいろ出てくるかと思います。それで、この後、課題をいっぱい出ししていけばいいかなと思っています。今、その段階でございますけれども。いかがでしょうか。

〇〇委員 1つだけ。私も先ほどおっしゃられた、A案が良いと思っていて、多摩第二小の通学区の線引きになっているのですけれども、線で切らないで、選ぶという形、学校をどっちでも選べるということは変えてはならないと思うんです。やはり保護者が選ぶ自由がない

とおかしいので、先ほど言ったこの東愛宕小、西愛宕小を統合したことによって、これだけ良いことが起きますということをアピールして、多摩第二小の保護者の方に理解してもらい、その方が選ぶという形にする。その上で理想は2クラスとか、1クラスにならない状態だと思うのです。

会長 ありがとうございます。

〇〇委員 今の選択制の話は元々あることなので、学区だけの問題ですから、それは問題ないと思うのですけれども、私、このA案とB案の差についてですが、A案の「しながら」というのと、B案の「ふまえてから」というのがあります。この絵を見ていると、例えばこの議論の進め方としては、しながらか、ふまえてからがあると思うのですけれども、結果の話です。うまく行けばいいのですけれども、うまくいかなかったときに、妥協線があるのかなと思うんです。

そのときに、B案だったら東西愛宕小は第1段階として統合するのか。そして、学区の変更はなしなのか。A案だったら、A案の話し方でいくと、東西愛宕小の欄が、卵みたいになっているのですけれども、これすらなくなって、バツになってしまうのか。このピラミッドのような絵と卵の絵との区別がいまひとつわからなくて、そこがちょっと気になるのですけれども、もしもくっついたことによっても適正規模にならないということで、はなから適正規模を求め続けるのでしたら、お送りいただいた表でも、これは明らかに1クラスなのがわかり切っている状況がある程度ありますから、東西愛宕小は何としても、まずは統合したいのか、それはなしなのかということで、A案とB案が分かれていくのかなという気がします。

第1段階として、少なくとも10人程度のクラスはやめようよということで、20人も多くはないけれども、まずは20人程度を目指そうということであれば、このピラミッドの下を土台にした上で、線引きの話とか、一定規模に関する話をしてもいいのかなという気がいたします。

会長 そうですね。今、実際、話を進めると、A案とB案は重なった話がどんどん出てくると思います。一応、分けたのですけれども、重なり部分もたくさん出てきますからね。分けて話をする方もいるでしょうし、中に入って話したりもするから、ふまえたというのは微妙なところですね。全然関係なく議論するという中でも、絶対多摩第二小のことを絡めて話す方はいっしょの可能性は十分ありますよね。

〇〇委員 そうですね。だから、ここが適正規模を目指すところで、統合しても適正規模にならないということだったら、もう最初からA案の話をすればいいと思うんです。

まずは統合したいということがあったら、統合のすばらしさとかいうか、うちなんかも統合校ですから、それをわかっていただいた上で、B案の話をしていけばいいのかなと。

会長 今日は統合したほうがいいのか、そういうことを決めるのではなくて、それは次の段階

になるので、その進め方においてやっているときに、結局、それは必要なとか、どうだなということが決まるのが次の段階になるものだから、そのためにとりあえず窓口をどっちからやろうかということです。

〇〇委員　ただ、最初からこのことを認識していただいていると、線引きの話になったときに、ここは土台なんだよと。踏まえているんだよというのが共通認識になるじゃないですか。そこは蒸し返さないでねということになるし、この卵のほうだったら、蒸し返してもしょうがないのかなと。そこら辺がネックになってしまうと。

会長　では、事務局から説明していただきます。

教育部参事　すみません、わかりにくいかと思うのですがけれども、A案とB案は実際の運営はかな(一定規模担当)り似通ってきますけれども、ただ、今、ちょうど出発点のところなので、そこであえて区別しますと、もともと多摩第二小は一定規模の観点からすると、問題のない学校なんですね。大きいかもしれません。それからぎちぎちかもしれませんけれども、一定規模からは問題ない学校です。

ですから、B案をちょっと見ていただきますと、東西愛宕小をまずどうするかという諮問もしておりますので、統合するかどうかを検討していただきます。もしここが統合は必要ないということになれば、多摩第二小の話もなくなるわけですね。そういう意味でB案をつくりました。

しかし、A案のほうは、そういうことを言わないで、多摩第二小も考えながら東西愛宕小の統合について検討していきましょうということで、仮に条件つきで東西愛宕小と一緒にしようとなったときに、今度、多摩第二小の線引きの議論に入ってきますよね、A案の場合は、どうなるかわかりませんが、多摩第二小の線引きがオーケーとなれば、それにこしたことはないのかもしれませんが、もし「ノー」ということになったときには、核の部分なので、もう一度そこに戻って議論をすると。多摩第二小がもしだめな場合はどうするのかということの議論ができるという感じでA案をつくらせていただいたということです。

会長　私は諮問事項に基づいた形で、最初にA案をつくったものです。これは流れが良いし、ごく自然だと思いましたからね。

〇〇委員、どうですか、先ほどの意見を聞いて。

〇〇委員　すみません、私の解釈の仕方が……。

会長　いやいや、いいんですよ、どんどんおっしゃってください。遠慮しないでください。

会長　〇〇委員。

〇〇委員　私はA案でいいと思っています。

会長 そうですか。
 〇〇委員、どうでしょうか。

〇〇委員 私もA案でいいと思います。

会長 そうですか。〇〇委員、どうでしょうか。

〇〇委員 私もA案がいいのかなというふうに。

会長 そうですか。ありがとうございます。
 〇〇委員、どうでしょうか。

〇〇委員 適正規模じゃなくても一緒にするのか、適正規模にしたいかというのもこれからの議論だと思えますよね。ですから、そういうことを考えたら、やはりA案で行くほうがいろいろな可能性がありますよね。そういう意味ではA案で。

会長 〇〇委員。

〇〇委員 網かけ部分が最初に協議ということなので、A案かB案かと思っていたのですが、今の事務局のお話を伺って、A案のほうがより深く、より良い議論ができるのではないかなというふうに思います。

会長 そうですか。〇〇委員、どうですか。

〇〇委員 私も立ち戻るところという考え方で、A案でよろしいかと思えます。
 先ほど〇〇委員のほうから多摩第二小の問題はという、これはもう常にかかわりながら考えてくる場所の問題ですので、決して相反するものではないと私も思いますし、そこは常に頭に置きながらということで、A案かなと思っています。

〇〇委員 私もA案がいいと思います。A案、B案というのは、先ほどご説明の中にもありましたけれども、重なる面がありますよね。そして、今後、多摩第二小の委員も検討されているということもありますから、そうすると、やはりA案で進めていってもいいのかなというふうに思います。

会長 ありがとうございました。では、今、皆さん、わかっていただいたようです。ではA案で今後、審議を進めさせていただくようにさせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

会長

では、お願いします。

ありがとうございました。

では、3番目ですね。先ほどは学校視察の感想を言っていただきましたけれども、今後はA案に基づき進めていきますので、東西愛宕小に関係する課題を自由に時間までどんどん、洗いざらい全部出していただければありがたいと思っております。これは自由に言っていただく。皆さん全員の方が自由に、気がつくままに言っていただければありがたいと思っております。

出すとき、例えば考える手がかりとして、教育効果の面とか、通学上の問題とか、それから地域との結びつきとか、こういったようなものが考えられる観点かと思っておりますけれども、自由に考えられていることをどんどん言っていただければありがたいと思っております。

その前に、事務局のほうから状況の説明がありますので、お願いします。

学校支援課長

では、資料16について、ごく簡単にご説明申し上げます。

こちらは小学校の児童数、それから中学校の生徒数の平成27年までの推計を表にしたものでございます。こちらの推計に当たり、小学校の児童数、学級数の推計としましては、ゼロ歳から5歳までは各学校区別の年齢別人口を、そして6歳以降につきましては在校生の児童数を計算の基礎にしております。中学校につきましても同様に、計算の基礎を置いております。

毎年、行っております学校選択制などの影響、それから住宅建設の計画も加味をして推計をしているものでございます。こちらの中で、全体としての傾向としましては、6年後、平成27年には小学校におきましては全体で約500人位の増、中学校では全体で約120人位の増を見込んでおります。

小学校の中で児童数の増加傾向を示しているのが、ご覧いただくとおわかりいただけますように、多摩第一小学校、南鶴牧小学校、西落合小学校、また大松台小学校といったところでございます。

減少傾向を示しておりますのは、東愛宕小学校と聖ヶ丘小学校などでございます。

そのほかに、今、網かけをしておりますところと言いますと、西愛宕小では微減の傾向というふうに言えると思っております。それから多摩第二小学校では、児童数はあまり変化がないということになると思っております。

中学校の変化につきましては、小学校の増減の傾向に対応した形で、やはり地域的には同様の傾向を示しているというふうに思います。

3ページ目の折れ線グラフでございますけれども、こちらのほうは右寄りのところに縦に点線がございますけれども、その点線より左の部分は、先日の第1回のときに、これまでの実績というところでお示しをしたものでございまして、その点線から右のところが推計の部分でございます。今の推計表をもとに、グラフでよりわかりやすくご覧いただけるようになっております。

ちなみに増減のところで、割合として一番多い増加を示しているのは南鶴牧小学校、それに次いで西落合小学校、そして大松台小学校、多摩第一小学校という形になっております。東愛宕小学校の減少の傾向としましては、6年後には現在に比べて約3割の減少

というふうになっております。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。今の件で何か質問等ございますか。

先ほど〇〇委員さんがおっしゃったように、これは先を見通した推計ですから、これをぜひ参考にして、今後いろいろ話を進めていただけるとありがたいです。

では、よろしいですか、次に進めさせていただきます。

それでは、今の東西愛宕小を中心としたところの課題について、自由にご意見、課題提出のほうをお願いしたいと思います。どんどん挙手していただければありがたいと思います。

では、〇〇委員、そちらのほうからずっと回ってお願いしようかと思います。よろしくお願ひします。

〇〇委員 では、先ほど申し上げたとおり、まず適正規模にこだわれば、適正規模にならないということが第一課題だと思います。それから、もう1つ、もし適正規模にならない場合に、多摩第二小をエリアとするということになりますと、適正配置の基本的考え方の中の地域コミュニティと歴史的背景の考慮というところからいきますと、愛宕地区のエリアと多摩二小エリアは地域コミュニティとしての接点が今までほとんどございません。

例えば例を挙げて言わせていただきますと、皆さん方、見ていただいたときに、気がつかれなかったかもしれませんが、実は愛宕児童館の隣に愛宕神社……。

会長 ありますね。

〇〇委員 今度の18、19日がお祭りなんですけれども、私、愛宕二丁目に住んでおりますが、何の接点もないんですね。氏子さんがいらっしゃる場所は、多分、この間、皆さん方がバスで、ここら辺が昔、東愛宕小に通ったことのある地域ですよというところがエリアなんではないかと思ひます、多分。ところが、あの辺は和田というのですけれども、和田の人たちの神社が愛宕神社で、実は愛宕という住所を持っている私たちは、いわゆる神社からは全く離れています。

ですから、変な話ですけれども、私、地区委員会の会長を20年以上やっています、つい最近、あそこで夏祭りをを行うことを知ったんです。なぜかといいますと、突然、児童館から電話がかかってきて「〇〇さん、おれたちここで泊まり会やるんだけど、隣が神社のお祭りやっていたら困るから、神社のお祭りっていつ」と私に聞き合わせがあったときには、「えっ、お祭りなんかやっていました」と叫んじやいました。最近はわかりましたので、今日、実は和田中に会議があつて、和田中へ行きがてら掲示板を見たら、18、19日が大祭ですということを確認させていただきました。

そんなふうに、地のすぐそばにある神社の氏子さんが本来の、要はこの間、回られたところの人たちと私たちのコミュニティの接点は全くないということですね。

ただ、あれば、私どもの学校からコミュニティの接点ではないのです。子どもたちが和田中の学区を持っていたから、今日もそういうことで、私たち和田中に会議で行

かせていただきましたけれども、生徒さんのおつき合いはあるのですけれども、地域コミュニティとしては全く……。

ですから、多摩第二小というお話があったとき、びっくりいたしましたし、今回、多摩第二小の委員がいらっしやらない気持ちもすごくよくわかります。

ですから、それは先ほど言いました東西愛宕小の統合の、多摩第二小を絡めなければ、別に適正規模じゃなくてもいいよという、統合しようよということになれば、全然課題でも何でもないことでございますけれども、地域としては、やはりそういうところは踏まえていくということになります。ですから、多分、統合して、仮に線引きが可能で線を引かれたとしても、新しくできる学校に、そちらのエリアの方がいらっしやることはないんじゃないか。ですから、かなりの長い年数をかけないと、この規模を増やすことは無理じゃないかなというふうに思っています。

ちょっと絡めましたけれども、東西愛宕小の統合だけじゃないので。

会長 ありがとうございました。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 今回、出していただいた表の推移で、確かにほかのところから比べれば少ないですし、絶対、両方合わせても適正規模にはならないですよ。やはりそれでも大丈夫なのかという部分で、1クラスではなく、それを2クラスにできるのかとか、そういう部分が確定されない限りは、統合に賛成をできない部分もあると思うんですよ。

ただ、多摩第二小の区域のことももちろん絡んでくるのですけれども、でも、今、〇〇委員がおっしゃられたように、そういう現実が私たちも見えてわかっているんで、そういう部分。

特に、西愛宕小に関しては、その後中学に上がるときにも、東愛宕中学校がありますけれども、やはりほかの中学に行く方、私立に行かれる方のほうが多いんですね。そうなったときに、単なる小学校の統合だけではなく、中学に対してのいろいろな希望とか、何か特色がなければ、そこから先、またそこに人は来ない。そのためには、じゃあ、小学校は違うところへ行こうというパターンになってしまうので、その辺の絡みがすごく難しいなど。

現実には、西愛宕小の子たちは、やはり地域性がかなりありまして、都営住宅と分譲住宅とあるので、どうしても私立に行かれる方が結構いるんですね。都営も高齢化しているので、小さいお子さんが少なかったりとかすると、今度、その規模をぎりぎり考えたところでも、またすごく微妙な部分が出てきてしまうのかなと。

やはり学校自体の特色をみんなにアピールするのはすごく大切なことではないかなと。特にそのメリットの部分ですね。やってみなければわからないというのが現実なんですけれども、やはりこういう方向性で、こういう学校で、何を目標にという部分がすごく必要だなと思います。

あとは、通学路はかなり……。1つ例を言うと、荒川区では帰りに必ず家まで、多分、シルバーの方だと思うのですけれども、緑の服を着て、必ず家まで全員を送り届けるんですね。そうしているのを、私、実家が荒川なので見て、すごいなど。学童から帰って

くるにしても、普通に学校から帰るにしても、多くのご老人がたくさんそういう形で、必ず1人ずつ全員、最後まで見届けるというのをやっていたので、そこまではできなくても、この間、歩いた遊歩道はかなり危険なんですよ。そういう部分も考えながらやっていかないと、統合は厳しいかなというふうに思いますね。

会長 どうもありがとうございます。〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 本当に難しいと思います。でも、ここで本当にメリットとデメリットと両方考えて、メリットがかなり多くないと、統合自体が本当に難しいと思います。27年度に人数的にも、こんなに少ないんだということを考えると、やはり一緒にしてあげたいというふうには思うのですけれども、先ほど言った、じゃあ、例えば2校を1校にして、この人数で2クラスつくれたらいいと思うのですけれども、どうなのか。

やはりクラス替えというのはすごく欲しいものだと思うんですね。人間関係的にも、子ども同士気まずくなっても、クラス替えがあると、そこで離すことができるのですけれども、1クラスだとそういうこともできないし、やはり理想は、単学級だと学年の先生は担任1人だけになるから、相談ができないと思うんですよ。先生同士の相談って、学年主任の先生がいて、それぞれの学年で話し合っ、どういう状態にするのがベストかという話し合いとかもできるのですけれども、単学級だとそういうことが1人の先生に任されてしまうのかなというところで、そういうメリットとか、でもデメリットもあるので、人数が増えても1クラスだと、それはデメリットじゃないですか、そういうことを話し合ったほうがいいのかなと思います。

会長 ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 やはり先ほどから言われているように、一番の課題は、単なる統合では適正規模にならない。これが本当に一番の課題かなというふうに思います。何のために統合を考えているかというのをまず第一に考えると、子どもたちというのは人とかかわり合いで成長していく部分というのがすごく多いと思うんです。それが子ども同士だけではなく、地域の方ですとか、保護者ですとか、あといろいろな先生に出会うことによって、子どもってぐんと伸びるところというのはすごく多いのかなというふうに私自身は感じているのですけれども、これを統合しただけだと、一番初めにいただいた資料を見ると、この資料の中では、現時点の2年生、4年生、6年生しか複数学級にならないんですよ。残されたあとの3学年というのは、現状どおり、ただクラスの人数が増えただけということになってしまうので、その子どもたちのケアですよ。1クラスで重点的に見てもらっていた子どもたちが、人数が増えたことによって、先生の目が多くの子どもに届くようになりますから、1人の子どもに届く目というのが限られてくるじゃないですか。そういう状況になったときに、子どもたちがそれに対応できるのかということもやはり一緒に考えていく必要があるのかなというふうに思います。

会長 よろしいですか。ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私も、先ほどからずっとお話ししているように、児童の人間関係ですね、単学級になると、やはり固定化したり、多面化しないという点があるので、そういう意味では複数学級というのは良いことだと思うので、それに向かって適正規模にしていくということは意味があることではないかなとは思っておりますが、今のところ、この人数の推移を見たときに、東愛宕小と西愛宕小は単純に統合するというだけでは、人数を含めてですけれども、複数学級というのは確保できるのかどうかというのはやや疑問があるというのがあるので、その辺をどうしていくかということだと思うのですけれども。

会長 ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 私はこの人数の推移を見ていれば、まず統合ありきだろうと思います。というのは、41人になったから2クラスになるのか、40人までだったら1クラスなのかというのは、その年々によって微妙な線ですし、2クラスになればいいのかと。じゃあ、79人だったらどうなるんだと、そういう話になるわけです。ですから、それは統合をまずありとした上で、次の段階で、子どもたちに手厚い指導をとということで、ピアティーチャーとか。多分、多摩市は人的には相当、司書の先生にしても、ピアティーチャーの先生にしても、手厚いと思います。その手厚さをさらにもう少し違った形で手厚くしていただく、そういう段階を踏まえた次の話し合いに行くべきで、そこもごっちゃにしてしまって、一定規模とか、統合、それだったらしないほうがいいとかというものではないのかなと思います。

今度は地域絡み、難しいなと思いました。多摩第三小との統合がだめになったとき、はた目ですから、その辺、よくわかっていない。じゃあ、多摩第二小だったらいいのかって、その辺もよくわかっていない。だけど、そういう背景があるのだったら難しいなと。

〇〇委員 要は、神社は山の上にある神社で、多摩第三小のほうは多摩第三小のほうで、山のところをニュータウンとしてつくったから、そこだけ完全に違うコミュニティという感じ。新しい。

〇〇委員 自分の住んでいるところが、やっぱりそうなんですけれども、自治会に入っている人という、何十年住んでいても、新しく入った人間は入れないわけで、一度、一緒に何か話し合いの場をみたい提案をちらっとしたときに、どこの馬の骨とも知れない人間がみたいなことを言われてしまったのですよ、面と向かってではなかったのですけれども。だから、そうか、20年住んでも馬の骨なんだと思ったのですけれども。

とにかく、本当に難しいなと実は思って聞いていました。多摩第二小との線引きなのか、実はひょっとしたら多摩第三小との線引きなのかとかね、それも含めて考えるほうがいいのかなとか。

あと、私、まだ合計を足し算していないのですけれども、この表では、東愛宕中学校も減っていますね。これは単純に、多摩第三小と……。

〇〇委員 多摩第三小の地域と、東愛宕小と西愛宕小の……。

〇〇委員 合計になるのですか。

〇〇委員 多摩第三小全部じゃないよ。区域が、だから多摩第三小の一部だから。

〇〇委員 多摩第三小は分かれていく。和田中と……。

〇〇委員 青陵中に行く人と……。

〇〇委員 青陵中と東愛宕中に分かれる。

〇〇委員 今、中学に行くのは、多摩第三小の一部も区域にはなっているんですね。

会長 説明していただけますか。

学校支援課長 多摩第三小の学区は分かれていませんので、そのまま東愛宕中学校に行くという形です。

〇〇委員 学区的にはそうですね。もともと2小、1中と言われていたのですが、東愛宕中だけが3小1中なんですね。3つの小学校から1つの中学校で。

〇〇委員 違う、豊ヶ丘の住所を持っているのは、全ての区域が何年か前に変わって、そのときにもう北豊小になっている。

〇〇委員 豊ヶ丘の住所になっているのは、町名・地番変更で、最初の学区だったところが豊ヶ丘になっている。もともとは多摩第三小の学区なんですよ、あそこも。

学校支援課長 あと、先ほどお話し申し上げましたように、学校選択制で学校を選択できますので、その数値を反映して推計をいたしました。

〇〇委員 かなり選択制で動いていますよね。

〇〇委員 東愛宕小は和田中と東愛宕中に分かれる。

〇〇委員 どちらかというと和田中。

〇〇委員 そんなことはない。東愛宕小学校は学校区的には珍しい小学校で、2つの中学に行く。学校区が分かれたのは、東愛宕小と東寺方小なんです、多摩市内では。それで、その両方のわりを食っているのが、和田中。和田中は竜ヶ峰小が多摩第二小と一緒にあったので、やっとなら3地区になりましたけれども、今まで4地区を抱えていました。4地区の地区委員

会は小学校区にあるので。

常に私はずっと長いこと、和田中と東愛宕中学校を掛け持ちで走り回ってはいますけれども、それは学校区が自由選択になる前は、東愛宕小学校区の約3分の1が和田中にいつも行くようだったんです。

ただ、子どもの数が多かった時代はほとんど3分の1だったのですけれども、今は非常に入れ替わったので、必ずしもそうじゃないし、さっき言ったみたいに、東愛宕中学校に行く校区の子が和田中に行ったり、和田中の校区の子が東愛宕中、そこはものすごくクロスしています。

現実には、自由選択なので聖ヶ丘中へ通っている子もいますし、青陵中に通っている子もいます。

ここで話は違いますが、地区委員会サイドとしては、学校選択制になったのは非常に迷惑で、ずっと前から言っています。地域で子どもを見なさいと言っているけど、地域の子どもの顔が見えなくなっているんですね、正直に言いますと。それで子どもを見なさいと言われると、非常に困ります。私どものところは、老人会が毎朝、小学校ですけれども、通学路に立って「おはよう」と声かけしているのを見えています。

この間、学校視察のときバスで通られた和田郵便局の前の交差点に立っている老人会の人が言うのですけれども、バス通学の子、それから自分の団地じゃないけれども東愛宕小に行く子ども、それから徒歩の子、その子たちに全部声をかけてくださっていますけれども、「どうなっているんだ、〇〇さん」と言われます。それは学校選択で、バス通学はバスでどこかの小学校へ行っているし、歩いてあそこへ行っているのよ、ごめんね。全部に声かけてと言っていますけれども、毎朝、声をかけているお年寄りの方にとってはびっくりしちゃう。「違うんだね、最近は」と。

ありがたいことにお声をかけてもらっていますけれども、うちの地域じゃない子も通るし、地域の子も通りますし、地域のお祭りなんか、私ども今度、夏に抱えていますけれども、それから秋に運動会をしますけれども、そういうクロスされているために、子どもたちを掌握したり、行事に出てもらうのにすごく困っていますから、これは話としては違いますが、選択制で迷惑こうむっています。

会長 ありがとうございます。地域のかかわり方が、今、問題になっているようですけれども、またあとで詰めていく段階でお願いしたいと思います。

では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 まず、適正規模にならないということに関しては、この数字を見ていて、例えば統合したとして、27年度までしか出せないですけれども、例えば10年後に、統合したのにまた次、どこかと統合だねという話が出るんじゃないかとか、結局、ここで統合の話を進めて、一生懸命みんなで話し合っても、また何年か後に同じことの話し合いをするのかなと思うと、意味がないのではないかなと思う部分と、あと、もしそうなるのであれば、例えばこの統合に関してだけは特例が認められるとか、例えば40人にいなくても、2クラス、ここは特例でつくれるよとかということが確約できるのであれば、他の学校からも、少人数で手厚い教育が受けられるんだよという宣伝にもなるだろうし、そういう面で

は、何か特例がないとどうにもならないのかなど。長い目で見たら、結局、同じことなのかなというのがあります。

あと、通学路に関しては、今、〇〇委員も言われましたけれども、東愛宕小に関しては、通学路に必ず老人会の方が立っていただいているので、すごく助かっているのですけれども、この間、歩いた遊歩道は、多分、老人会の方をお願いしても立てないと思うんです。統合となった場合に、東が西に行くのか、西が東に来るのかわからないけれども、そうなった場合、通学路は多分あの遊歩道ではなくて、バス通りとか大通りになるんだろうなと考えると、結構な距離を、1年生なんかは大きなランドセルを背負って歩かなくてはいけないのかなとかは少し問題かなと思いました。

会長 どうもありがとうございます。では〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 今、皆さんのおっしゃるとおりのことばかりなんですけれども、通学路の件は、今、〇〇委員も言われていたように、この間、通りましたあの道、小学校の裏から中学校の裏を通るあの道が西愛宕地域としても、東愛宕地域としても、きっと考えられない通学路だと思います。

 というのは、本当にうっそうとしていますし、人通りも少ないですし、不審者とかもとても多い場所なので、ご覧になってわかっていただけたとは思いますが、やはりあり得ないだろうなというのが西愛宕小の保護者の総意ですね。通学路をとにかく何とかしてもらわないことには、それこそどっちに行くにせよ、心配だよねというのは、多分、東愛宕小の保護者も思っていることだろうねというのは西愛宕小の保護者からもすごく出ています。

 本当に〇〇委員とほとんど同じ意見なんですけど、愛宕地域の児童数の減少化を考えると、今回、例えば統廃合になったとしても、また何年か後に、多摩第二小と、多摩第三小という形で、また地域を2つに分けていくのかなというふうに何となく描けてしまうので、どうなのかなというのは思っています。

 西愛宕小の保護者で、統廃合についてのアンケートみたいなものをとってみたのですが、例えば統廃合をして東愛宕小のほうを使うということになったとして、そうすると、山の中を歩いていくというのと、西愛宕小の地域はわりと多摩センター駅に近い山の下の方もいらっしゃるんで、そうすると、山を上がって下ってという通学路になるんですよ。そうすると、やはり1年生の小さい子とかはちょっと大変だろうなというものもあるので、逆に、同じ距離を歩くのだったら、多摩第三小とか、大通りで人目の多いほうに行かせるでしょうという意見の方がとても多いです。それはちなみにという話ですが。

会長 なるほど。ありがとうございます。
 では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 今まで皆さんがお話しされたことに似通っているのですが、やはり適正規模にならないというのは課題ではあると思うのですが、そこはこのA案のように、多摩第二小、地域の問題は抱えながらであっても、議論を同時にしていくと。推計人数を見たときに、

27年度、83人とありますね。これは学年によたらわかりませんが、1けたの学年も出てくる可能性さえあるんじゃないのかなという気がするんですね。子どもはその中にいけば、もっと多人数の学級に行きたいなんていうことはあまり感じないのでしょうけれども、保護者の方が見たときに、ちょっと寂しいな、もう少し子どもが欲しいなというふうにきつと思うと思うんです。

そういったときに、やはり統合を基本に考えていく。そこで40人になった云々というお話がありましたけれども、その部分については、少人数授業もありますし、人的配置については、多摩市教育委員会のほうに、最大限検討していただくというようなことも1つの課題かなというふうに思いますが。

会長 ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 人数のことになると、話が煮詰まってしまうというか、そんな気がするのですが、逆に私はお聞きしたいのですが、保護者の方々から見て、西愛宕小の良いところ、東愛宕小の良いところって何かと。そしてくつつけられないのかなと。保護者の方から見て、どうですか。

〇〇委員 そうですね、環境が良いということで、例えば土器を焼いたりとか、要は山のでっぺんにあるので、周りにすぐ横が団地とか、そういうわけでもないの、敷地もありますし、あまりそういうご近所に気を使うことなく土器を焼いたりとか、そういうことをしているとか……。

〇〇委員 果物の木がある。各学年ごとに果物を収穫できる。

〇〇委員 そうですね、自然はいっぱいですね。

〇〇委員 子どもはどうですか。

〇〇委員 子どもたちは元気ですよ。すごく元気で、私は2年生の子どもなので、人数が比較的多いクラスにいるのですが、今年の1年生は15人で少ないのですけれども、逆に初めてのお子さんという保護者が多くて、少人数だというのはとても親も安心だし、子どもも先生にいつもくっついてというところはあるかなとは思いますが。

〇〇委員 少人数で安心。

〇〇委員 目をかけてもらえるというところで安心という。

〇〇委員 東愛宕小はどうですか。

〇〇委員 東愛宕小は一言で言ったら、伸び伸びしているところですかね。でも、伸び伸びし過ぎ

ちゃっている子もいるのですが、でも、施設の面でも教育の面でも、伸び伸びしているのかなというのは良いところだと思います。

やはり子どもの人数に対して、地域の大人の人数のほうがかなり多いので、大人の目が多い分、登下校だったりとか、イベントだったり、行事だったりということには、かなり良い意味で見ていただき、入っていただいているので、そういう面ではすごく良いと思います。

〇〇委員 地域の方がとても参加して下さると、支えて下さる。

〇〇委員 はい。ほとんどの行事に地域の方が入っていただいているので、子どもだけではできないような人数でも、大人の方に入っていただいでカバーしていただいたりとか、そういう感じで、地域と密着しているというのはすごく良いところだと思います。

〇〇委員 そういうものを一緒にうまくできるといいなというふうに思うのですけれどもね。

統合しても、子どもは減るのですけれども、単純に合計すると、今年の人数、6年生を除くと、5年生のほうから34、52、38、42、30ということですから、10人位よそから来てくれれば、10人位呼び込むセールスポイントがつかれるような統合だといいかと思いますけれどもね。

すぐには答えは出ないので、この後、審議を重ねる中で、そういう話が出てきたらいいなというふうに思っているのが今の段階です。

会長 どうもありがとうございました。〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 西愛宕小、東愛宕小、それぞれの問題に関しては、今、地域の方が一番よくご存じで、でいらっしゃるのだらうと思います。子どもの数の減少というのはどうしてもとめられないので、今、考えるとしたら、どういうふうに子どもたちにとって魅力のある学校づくりができるかということだと思います。今、〇〇委員もセールスポイントとおっしゃっていましたが、この間、学校を見せていただいた日の午後、聖ヶ丘小学校に行くことがありまして、今、聖ヶ丘小学校も児童数が大変減少しているところなんですけれども、ピアティーチャーの先生がすごく多いんです。子どもたちにも目は行き届いているし、あと、これから英語活動に力を入れたいというお話がありまして、私とうちの学生を英語活動に送っていて、とても喜んでいただいているのですけれども、そういった学校ならではの独自の活動ができる、そういうものを子どもたち、または保護者の方に受け入れていただければ、良い学校づくりができるのではないかと。そういった議論もできたらなというふうに今、思っています。

会長 ありがとうございます。では、〇〇委員、お願いします。

〇〇委員 もうほとんど委員の方から出尽くした感があると思います。私も拝聴してしまして、本当に委員の方々がほとんど同じところを指摘されていて、思いが重なっているということ

ろ、あとは条件として考えなければならないところをもう少しいただきたいと思うんです。例えば本当に一緒にしたときの人数が、それが2クラスとれるかとれないかということの条件も含めまして、そういうことを考えていくということが、今後、課題になってくるというところで、全部重なっているなという思いで伺っておりました。

私としては、先ほど〇〇委員からも〇〇委員からも、今の現状でまた将来、5年先、6年先に同じことが……。私もそれはやはり反面、とても共感いたします。

ただし、そうはいつでも、5年後、6年先の子どもたち、今、目の前にいる子どもたちにとっては、今が問題なわけですから、そのときにはまたそのときの大人たちが考える必要があると思うんです。ですから、今、私たちがこうやって考えることは決して私は無駄ではないと思っています、今度、入ってくる1年生の子たちとか、今、学校にいる子どもたちが、何かすごく学校が楽しくなったねとか、すごく学校が良くなったねと思えるようにやってあげられるのだったら、私は何度でもこの場に足を運ぼうと思います。感想めいてしまいましたけれども。

会長 言い足りないという方はいらっしゃいませんか。ありましたら、どうぞ。

よろしいですか。今、お話を伺って、みなさん多摩市のこの地域の子どものためにと本当に考えて、ハードの面とソフトの面を両方しっかり一緒に考えながら話をされたというのはすばらしかったなと思います。

そして、簡単に言いますと、3つですね。1つは地域の問題ですね。地域の抱える問題が1つ出てきました。2つ目は、〇〇委員が言われたように、これから先のことを考えたときに不安にならないで、生涯教育というか、生涯の生活という視点から考えていく。こういうことはあまりぐるぐる変わらないほうがいいということで、1つ、考えがありました。それから、3つ目はやはり最終的には新しい学校をつくるんだ、魅力ある学校づくりだという視点ですね。〇〇委員からもお話がありましたけれども、そういうことで、今後、審議がどんどん進んでいけばいいかなと思いますけれども。今日は課題を出しましたが、これから今日の審議を事務局のほうで整理していただき、それをもとにして皆さん、次回からの審議が具体的に始まっていくと思いますけれども、よろしいでしょうか。何か言い足りない方。よろしいですか。

〇〇委員 逆に、また教育委員会のほうにこういった資料はないのかとか、こういった情報がもし知ることができればというのがあったら、今、出していただければと思うのですけれども。

会長 今のような形で具体的に進めていくに当たって、今、〇〇委員がおっしゃったように、資料のこととか、こういうことをぜひやってほしいということがあれば、私のほうからまたお願いするという形になりますから、どうぞ。

〇〇委員 資料的に可能であれば、多分、学区というのは、青少協の線引きとある程度、連動していると思うのですけれども、自治会とか、相当分かれていると思うんです。自治会というのは、先ほどのコミュニティそのものだと思いますので、その2通りの線引き地図が欲しいかなって。

会長 そういうものはありますか。

〇〇委員 小学校の区域と、あと自治会の区域と。

教育部参事 わかりました。では、次回自治会のほうの資料を用意します。
(一定規模担当)

〇〇委員 現時点で、東西愛宕小の学区にいて、他の学区の小学校に通っている子どもが大体どのくらいいるのかというのが出れば、教えていただきたいなど。

会長 選択制なんかでね。

〇〇委員 そうですね。学校選択制で他の学区に通っている子どもですとか、あと私学に通っている子どもが大体、地区に何名ぐらい抱えているのかというのがわかると、今後、そういった見通しも、傾向として大体この辺に住んでいる子はこの学校に行くだろうとかというのがわかってくるのではないかなと思うんですね。

会長 そういう資料は出せますか。

事務局 用意します。

会長 では、それは次回までに準備をお願いしておきます。
それでは、審議のほうは終わりにさせていただきますけれども、よろしいですか。
続いて、事務局から今後のことについてお願いします。日程等についてですね。

事務局 では、続きまして7番、その他項目ということで、事務局からお話をさせていただきます。

先日もお話をさせていただきましたが、審議会は公開で行うということなので、第6回、第7回の会議の日程をこの場で決めさせていただきたいと考えております。

(第6回、第7回審議会の日程調整)

会長 では、第6回を8月24日の月曜日7時から、第7回を9月8日火曜日夜7時からということにさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。場所はこちらの第二庁舎会議室で開催したいと思います。

会長 それでは、ちょうど時間も9時前になりましたけれども、今日は非常に重要な、ポイントを得たいろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。次回から詰めてい

きますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。
本日はありがとうございました。